

ライフケアガーデン湘南

症 例 概 要 利用者：80代 介護度：要介護1

利用期間：令和8年5月～現在に至る

経 過：13年前に夫他界、子供は2人。不安神経症の既往あるが2019年から通院不安定になり、適切な医療が受けられずにいた。娘様に連れられて2020年11月に再診、その後徐々に精神状態は安定。脊柱管狭窄症の為足の痺れあり徐々に独り暮らしが不安になってくる。「いつからか心を閉ざしてしまっており生活が心配。孫が四国に住んでおり、孫のところへ遊びに行ったり旅行へ連れて行ったりしてあげたい。」と安心した生活とリハビリを目的として入居となる。

内 容

令和8年5月入居。入居時より「子供が迎えに来た」「孫が駅で待っている」と帰宅願望を訴え不穏で落ち着かない様子あり。徘徊や服薬拒否もあり他のご入居者からも距離を置かれている状態だった。脊柱管狭窄症の為下肢の痛みの訴えも強い。ご家族も入居前より今の精神状態で施設で生活できるのかと心配している様子であった。

しかし精神的に落ち着いている状態の時は笑顔で他入居者と挨拶されたり、体操に意欲的に参加される様子があった為カンファレンスを実施。関り方を工夫すれば状況改善出来ると判断し多職種連携で情報共有をした。まずは生活に慣れてもらえるような対策を実施。

介護は声掛けする回数を少しずつ増やし無理の無い範囲で体操や書道クラブへの参加を促した。声掛け時は渋々な様子だったが、レク参加中は笑顔を見る事ができた。

看護は言動や行動を医師へ報告。主治医より幻覚幻聴は認知症症状だけでなく精神疾患も考えられる為、精神科に状態報告。

リハは下肢の痛みに対して介入開始。ご本人の状態に応じて杖歩行と車椅子移動を併用。歩行時間が長いとふらつきが出るので寄り添い、座って休む事を促した。同時に「旅行に連れて行ってあげたい」の希望を叶える為下肢筋力の向上を目的としたリハも開始。

営業、ケアマネは居室でお話を聞いたり、お散歩にお連れしたりと安心して生活できる場であることをご本人、ご家族へお伝えしていった。

こうした対応を継続して行っていた結果6月中旬には積極的に体操や音楽クラブに参加されるようになった。この頃から帰宅願望も減少傾向にあった。調子が上向きになってきた事により杖を持たずに歩く姿が散見されたので、居室内に杖歩行を促す貼り紙を掲示。その対応に「気を遣ってくれてありがとう」と受け入れて下さった。

6月下旬には普段から穏やかな表情が続く事が増えてきた。食事もしっかりと召し上がり、入浴も拒否される事が殆どなくなった。

今後もレクリエーションを通して他者との関わりを増やし、リハビリを継続する事で、ご本人、ご家族の願いである旅行に出かける事を目指す。

心身ともに充実した日々を提供できたこの事例を、キラキラ介護賞として推薦します。